

留学僧育英会第三十回を祝して

大乘寺山主 東 隆眞老師

(育英会名誉顧問)

ただ今ご紹介いただきました金沢市大乘寺の東隆眞でございます。

このたびは横浜善光寺留学僧育英会、その育英生派遣が、三十回を迎えるということで誠におめでたい限りでございます。なにかお話をしてくれという博志老師のご依頼を頂きました。ご存知かと思いますが私は、数年前から腰を痛めておりまして、大分よくなっておるのですが、まだ完全に治っておりませんので、皆様に大変無様な格好をお見せしております。が、このご依頼は嬉しくて、よろこんで参上したような次第であります。

すでに『法の華は人によりて開く』に書いておきましたが、この育英会の創立当初、黒田武志老師は奥様とお二人で私がおりました世田谷の駒澤学園へおいでになりました。

黒田老師いわく「せっかく立ち上げた育英会ですが、もうやめようと思う。と言うのも表では『黒田さんはいいことをしているな』『すばらしいな』と言いながら、裏では、『黒田のやっていることは自己満足だ、売名行為だ、いい気になっている』そう言って足を引っ張っている



る人がいるんだよ、すっかり嫌気がさしてしま
った」と黒田さんはそう言うんです。
で、私は「なにを言ってるんだ。あなたのや
っていることは実にすばらしいことなんだ。だ
れもやっていないことなんだ。だからもう一度
考えてみてくださいよ。私もできるかぎり陰な
がら応援したいと思う」と。

「そうかな。それじゃ考えてみよう」そう言

ってお帰りになったのであります。

そのことと前後して、私の学問上の恩師であ
ります小川弘貫先生からこういうことを言われ
ました。「おい、東君、人の世話をしたってね、
せいぜい後ろ足で砂をぶっかけられていくのが
通例なんだよ。な、そのことをよく心得ておけ
よ」と。小川弘貫先生というのは渋谷あたりで
毎晩切った張ったの大げんかをくりかえしてい
る駒澤大学の学生も小川先生の名前を聞くとひ
れ伏して頭をこすりつけて「先生、先生」とい
うような方でした。

そして一方、駒澤学園に鎌田茂雄先生という
先生がいました。私の兄貴分になります。小
川先生に「鎌田、お前は東大へ行け」と言われ
て、「はい」と二つ返事で勉強して、駒澤大学
を卒業して東大に行き、後に東大の教授になり
ました。『中国仏教史』、その他、等身大の著書
があります。岩波書店から出しました『中国仏

『教史』は七巻くらいあったと思います。日本学士院賞も受けまして、もし生きておられれば、八十五、六歳ですが、恐らく文化勲章を受けられたに違いないと思います。すごい人がいるんですよ。

この鎌田さんも小川先生のお弟子でありました。小川先生はおだやかで、おとなしい、やさしい先生なのです。が、なぜか先生の前に出ると誰でも借りてきた猫のようにおとなしくなるんですよ。小川先生はずいぶん人の面倒をみられました。私も面倒をみてもらった一人であります。小川先生は若い人を育てるのに破格の扱いで面倒をみられた方なんです。もうあんな先生はほかにいないでしょう。あんな先生は後にも先にも私は見たことはありません。その先生がそう言うんですよ。「どんなに人の世話をしてもせいぜい後ろ足で砂をぶっかけられていくのが関の山だよ」と。そのことを覚悟しておけ

よ、と。こう言われたことを黒田さんの話と一緒に、私はよく思い起こすのであります。

ですから私は黒田老師の誓願によって創設された、この育英会、それによって助けられた方々が、各方面にたくさんいらっしゃいます。そして育英金をいただいた人は今後どうかひとつ黒田老師のお気持ちを受け継いで、若い人を助けてあげる、育ててあげる。そういうことに力を尽くしていただきたいと願っております。

それからもう一つ。黒田老師は「宗祖を通して釈尊に帰る」ということをよく仰いました。それが誓願でありました。黒田老師は、他にも誓願を抱いていらっしゃいましたが、あまり人が知らないことを申し上げます。

岩手県の盛岡市のお寺様、私はどんなお寺だか存じ上げませんが、そのお寺様に黒田老師はお仏舎利を贈呈されているという記録を見まし



昭和五十九年一月十五日
留学生制度設立準備委員
会にて



た。

数年前に私は金沢医療センターに一ヶ月ばかり入院したんですが、そのときの主治医の太田安彦先生が真如苑の信者さんだったんです。私が太田先生といういろいろ話をしているうちに黒田老師に行き当たりました。どういうことかといえますと、そのころ曹洞宗の管長・高階禪師様の名代で黒田老師がタイのお仏舍利を真如苑にお届けになっていたのですね。その時の写真をご覧になって「東さんはこの方と友達だったのですか!」と、すっかりびっくりされてしまいました。大乗寺に二度、三度、黒田老師のためにお参りになったことがあります。これもお仏舍利の御縁だと思えます。

私は平成五年四月、タイのワット・パクナムに黒田老師のご案内で参りました。そして、ここでお仏舍利を頂いたのであります。十二、三粒頂いたかと思えます。お釈迦様の像もありま

して頂きました。というのは副住職が日本人だったのです。そういうことで頂いて持つて帰りますして、今もお祀りしております。

その十二、三粒の中で、三粒ばかり駒澤学園の学園長や、私の親友、私の義理の弟のお寺に収めました。あと十粒ほど私のところにあります。私は、「大乘寺にお仏舍利塔を建てたい」という念願を持つております。これは大変なことでありますけれども、この念願が実現しようとするまいと、私は固く心に留めて、それをなんとか実現したいというふうに思っているのです。

大乘寺にお仏舍利塔ができますと、金沢のどこからも見えるような高いところでありますから、すばらしいと思うんですね。現にそういうものをお作りになるなら、私はそこに入りたいというおばあちゃんも何人かいらっしやいます。まあ、そういうことで黒田老師はお仏舍利につ

いても深い深い御縁があるんだということを申し上げたいのでございます。

それからもうひとつ最後に申し上げたいのは、三、四年前に私は大乘寺に世界禅センターというのをつくりました。それは世界各地からお招きいただき、これまで中国・韓国・台湾はもとより昨年はオランダに参りました。来年はネパールへ行くことになっています。

皆様、今、大乘寺の世界禅センターには、年間二、三百人の外国人の参禅者が来るんですよ。先日も五十歳過ぎのイスラエルの女性でユダヤ教徒の方が大乘寺に来て約二週間、朝早くから起きて坐禅をしていたんです。

その女性に「あなたは世界禅センターのイスラエル局長になつてくれ」と言いますと、即座に「はい、わかりました。それでは何か証拠を下さい」と言いますから、この絡子を差し上げ

たのであります。

いずれにしましても、たくさんの方が来るんですよ。つまりそれだけ多くの外国人が仏教、坐禅というものに非常な関心をもっているという、ことでもあります。これからは、外国人専用の寄宿舎を設け、外国人専任の語学に堪能な指導者を養成して、こうした外国人を迎え入れ、坐禅の指導にあたる。そういう必要が絶対にあると思います。いかがでしょうか？

私には、現に三人ばかり、外国人の女性の弟子がおります。一人はイタリア・フィレンツェの真如寺という寺におります。ついこの間、侍者和尚が帰ってきたばかりです。

それから現在ここの育英生にさせていたでいて、そして頑張っております、アゼルバイジャン出身の女性です。金沢大学のドクターコースを出て医学博士の学位を取得して、金沢大学の

専任教員をやっております。二、三日後にはアメリカの大学の要請で出張することになっていきます。アイーダ・ママドバといいます。

あともう一人はアルゼンチンのエミール・ロミーナという女性です。日本へ来て、京都の禅寺をはじめいろんなところに行きますけれど、いまひとつ、どうも満足できないというんです。しっくりこないというのです。

そして挙げ句の果てに大乘寺に来るのです。で、やっと落ち着いたということです。

この間オランダに行ったときもライデン大学の女子学生が二名宿舎に訪ねてきました。三分乗り物に乗って、さらに三十分歩いて来てくれました。それくらい熱心なんですよ。

そういう状況を知らないとかやがて、二、三十年後には、仏教というのは、坐禅というのは、中心地がアメリカやヨーロッパに移ってしまうでしょう。もちろん中心地がどこへ移ったって



いいんですけれども、我々日本人の僧侶としては残念ではないか、そんなことを感じております。

そういうことを背景に感じて、世界禅センターをつくっておるわけですが、それも元はといえば、黒田老師、兄上様の前角老師、こういう優れた優れた先覚者がおられたので、その影響

を直接間接に私は受けていることに間違いはありません。そのことを申し上げさせていただきまして今日のお話を終わらせていただきたいと思えます。

なお、この横浜善光寺留学僧育英会というのは第二代・博志老師によって受け継がれて、発展を続けています。一ヶ寺でこういう催しを行っているお寺は善光寺様だけでしょう。

このお寺（善光寺）は素晴らしいなということとで、かつて東京の中野区の成願寺の小林貢人さんというご住職が見えました。私もそのとき来ておりました。そして黒田老師からいろいろお話を聞いて帰られました。

その後、成願寺様は成願寺様流の育英会……成願寺学術研究振興基金「小笹会」……つまり仏教を勉強する人たちの励ましの会をつくっておられることも申し添えておきたいと思えます。

大変どうも失礼いたしました。

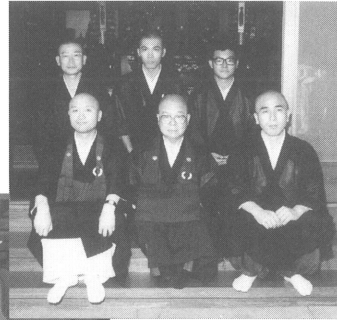
最後になりますが、この育英会をいろいろなかたちで物心両面から支えておられる善光寺様の檀信徒の皆様には厚く厚く御礼を申し上げます。また、裏方として先代黒田老師、そして現在の第二代黒田老師とともに御尽力いただいている先代御令室・当代御母堂の倫子夫人に甚深なる謝意を表し、今後とも御健勝であられんことをもつぱらお祈りいたします。

ありがとうございます。



昭和六十三年
第三回総会会議にて

昭和六十三年八月二十三日第三回
善光寺海外留学僧派遣育英会総会



昭和六十一年
留学僧総会

平成六年三月三十日十周年記念式典

